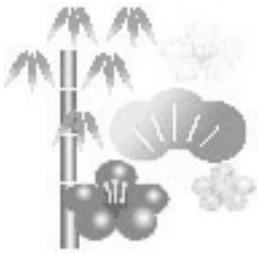


2009年1月

さくら

発行：偕行会透析医療事業部 さくら編集委員会

皆様へ新年のご挨拶



偕行会透析医療事業部 事業部長

名古屋共立病院 副院長・腎臓内科部長

偕行会 セントラルクリニック 院長

春日 弘毅

透析を受けておられる皆様、またそのご家族の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

まず、皆様へはお詫びと御礼を申し上げなければなりません。昨年、名古屋共立病院が人工関節のロボット手術について、厚生労働省から問題があるとの指摘がありました。これに関して監査を受け、その結果に基づいた厚生労働省の判断を待っているところです。

ロボット手術については欧米では既に臨床応用されており、名古屋共立病院でもこの先端技術を取り入れて、人工関節手術の治療成績を向上させているところでした。私どもとしてはあくまでもよりよい治療を追及することを目的としていたのですが、厚生労働省が指摘されるように私どもに現在の医療法と矛盾する点があったことも確かです。反省すべき点はきちんと反省し、今後の医療活動に取り組んでいかなければならないと考えています。この際、名古屋共立病院での今後の診療に関しまして、名古屋共立病院はもとより偕行会グループの各クリニックに通院中の皆様やそのご家族の方々に、大変なご心配、不安をおかけしました。これにつきまして改めて深くお詫びを申し上げますとともに、厚生労働省から何らかの処分があった場合にも皆様にご迷惑をおかけしないようにすることを、お約束いたします。

そして、なによりもこれら一連の動きの中で、いち早く患者会の方々が中心となり名古屋共立病院に対するご支援の署名活動が行われ、その結果非常に多く